

厚生労働大臣賞（優秀賞）

水と共に生きる

栃木県

佐野日本大学中等教育学校 二年

林 咲結理

水は、私たちに利益を与える時と、害をもたらすことがあります。

私は先月、旅行で黒部ダムを訪れました。黒部ダムは、日本最高堤高、一八六メートルもある、大きなダムです。放水されるダムはともきれいでしたが、その影には、先人たちの努力の結晶がありました。黒部ダムに行くまでのトンネルで、青い光に包まれた何メートルかがありました。そこは、大破砕帯。岩盤の中で岩が細く割れ、地下水を溜めこんだ地層から毎秒六六〇リットル、平均温度四度の水が流れ出て、約八十メートル進むのに七ヶ月もかかった最大の難所だそうです。この大破砕帯を作るのを含め、黒部ダム建設では二五八人も亡くなったそうです。この大破砕帯を通る時、いつもとちがう気持ちになりました。水を使って発電をするという目的で、人々のために作られるのに、多くの人が亡くなっている。私は、とても考えさせられました。

このようなことや、台風、津波など、自然災害で大きな害をもたらす水。水は、時には人々を苦しめる時もあります。しかし、人々を救う時もあります。干害により、水がなくなってしまった時に配給される水。ごはんを炊く時に使う水。お風呂の水。水は害をもたらすこともあります。やはり水は多くの人から必要とされる大事な物なのです。そんな水が健全な循環ができるようにするために、私たちができる事は何か、考えてみました。一番簡単にできることは節水だと思います。洗濯の回数を減らしてまとめて洗うこと。また、汚れのものを流さないことも大切です。排水口に水切りネットをつけて、食べ物のかずを流さないこと。そして、何よりも大切なのは川や海にゴミを捨てないこと。身近な所から、少しずつできることをやるだけでも、ずいぶん結果は変わってくると思います。このようなことをして、人間と水が「共に生きる」ことができる社会を作りたいです。また、私が考える「共に生きる」というのは、節水以外にも一つあります。それは、「水について知る」と

いうことです。まず、海の水は太陽の熱で温められて水蒸気になり、やがて雲になります。そして、その雲は山にぶつかったりして、雨や雪になって降ります。この水が、地下にしみこんで地下水になったり、ダムを通して川、海、湖などに流れついたりします。また、生活用水としてくみ上げられる水もあります。くみ上げられた水は、取水地でたくわえられます。次に、着水井を通してくみ上げられた水の量、水質などが把握されます。そして、沈殿池を通してよごれを沈殿させ、ろ過池でさらに細かいよごれもとりのぞかれます。そして、塩素混和池で消毒され、きれいになった水は配水池から蛇口へと運ばれます。このような水の循環を知ることでも大事ではないでしょうか。なぜなら、水について知っていれば、水に関するお仕事をやってくれている多くの人たちに、感謝の気持ちを持てるからです。感謝の気持ちを持っていれば、節水をするのを常に心がけることができると思います。その結果、浄水場での負担を少しでも減らせることになると思います。私の住んでいる栃木県は、海なし県なので、海を掃除するボランティア活動に参加することはほとんどできませんが、水について知ったり、節水することはできます。身近な所から水を知ったり、節水をしたりすることで水と「共に生きる」ことができるのではないのでしょうか。

私たちによって支えられている水、水によって支えられている私たち。かけがえのない水と「共に生きる」には、まず私たちの努力から始まると思います。